

WEEKLY SIGNAL

2020年2月7日(金) 1511号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想					
2/10(月)		2/11(火)	2/12(水)	2/13(木)	2/14(金)
無担保O/N	△ 0.087% ~ 0.001%				
銀行券	+ 900		+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他	△ 31,100		+ 2,000	△ 7,000	+ 74,000
資金需給	△ 30,200		+ 3,000	△ 7,000	+ 74,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M・6M)			国債発行(10年物価連動債) 源泉税揚げ	年金定時払い
オペ期日		祝日			
オペスタート					
(日本)	経常収支(12月) 貿易収支(12月)		工作機械受注	営業毎時報告(2月10日現在)	雨宮日銀副総裁の講演 対外・対内証券投資(2月2-8日)
(海外)	米 予算教書公表 米 ファイデルフィア連銀総裁の講演 米 サンフランシスコ連銀総裁の講演	米 バウエルFRB議長の議会証言(下院) 米 セントルイス連銀総裁の講演 米 ミネアポリス連銀総裁の講演 米 ニューハンプシャー州予備選	米 バウエルFRB議長の議会証言(上院) 米 ファイデルフィア連銀総裁の講演 米 財政収支 米 ニューハンプシャー州予備選 米 CPI(1月)	米 FRB理事指名承認の公聴会 米 新規失業保険申請件数 (8日終了週) 米 GDP(4Q)	米 クリアブランド連銀総裁の講演 米 小売売上高(1月) 米 鉱工業生産(1月) 米 ミシガン大学消費者マインド(2月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金は週初、400兆5,400億円から始まった。その後、同残高は4日の法人税・消費税・保険揚げや5日の国債発行などの要因により減少傾向となり、週末となる7日には390兆800億円となった。

無担保コールON物の加重平均金利は週初△0.033%から始まった。その後は、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズの高まりから、同金利は上昇基調となり、週末となる7日には△0.014%となった。

ターム物は1〜2W物を中心に、主に△0.02%〜△0.01%台での取引がみられた。

来週は国内では、12月の経常収支(10日)、雨宮日銀副総裁の講演(14日)、海外では、バウエルFRB議長の議会証言(11日、12日)、1月の米小売売上高(14日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入れ発行総額は約5,100億円で、週間償還額(約4,700億円)を上回った。発行は、その他金融や鉄鋼等の大型案件もあったが、小型の発行案件中心の落ち着いた市場であった。発行残高は、先週末の22兆3,234億円から6日時点では約22兆3,900億円強となった模様。発行レートは、概ね0%近辺の出合いであった。

来週の発行市場は営業日が少なく、週間償還額の約5,400億円に対しほぼ横ばいの発行にとどまるだろう。今週同様、3月期末を見据えて期内物中心の発行が多いと思われる。発行レートは、市場残高が22兆円台前半で推移していることもあり、引き続き0%近辺の出合いと思われる。また、発行頻度の高い銘柄ではプラスレートでの出合いとなる。

<TDB>

6日のTDB6M886回債(8/11償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1375%(前回債△0.1162%)、平均落札利回り△0.1395%(同△0.1182%)となり、入札後△0.160%〜△0.155%のレンジで取引された。7日の同3M887回債(5/11償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1323%(前回債△0.1203%)、平均落札利回り△0.1367%(同△0.1257%)となり、入札後は△0.140%出合いが見られた。そのほかセカンダリーでは3M884回債(4/27償還)が△0.145%〜△0.140%、同885回債(5/7償還)が△0.165%〜△0.145%のレンジで取引された。来週は14日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.06%〜△0.045%からスタート。短国買入オペが実施された5日受渡しではレートが上昇し、△0.09%〜△0.065%で取引された。その後、短国3M・6Mの発行が重なった10日受渡しでは、△0.065%〜△0.04%での出合いとなった。SC取引では2年407回債の引き合いが多く見られ、週を通して△0.30%〜△0.20%近辺で取引された。他2年403〜409回債、5年137〜142回債、10年336〜357回債、20年164〜171回債、30年59・62〜65回債、40年9〜12回債などに引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。